

付録一 5 詳細点検報告書様式

—目次—

	ページ
詳細点検報告書.....	1
橋梁保全更新計画策定シート.....	3
履歴診断シート.....	7
点検診断シート.....	8
損傷一般図.....	11
損傷詳細図.....	12
損傷写真.....	15
施設写真.....	16
部材番号図.....	17
損傷度評価.....	19
状態指標.....	29
E判定会議.....	32
M 判定結果.....	33
E判定一覧データベース.....	34
詳細点検データベース.....	35
状態指標データベース.....	36
詳細調査データベース.....	37

詳細点検報告書

橋梁名		OBAS No.	
点検業務委託名			
詳細点検実施年度		年度(西暦) 実工期[~]	
点検業者名		点検者	
設計職員		監督職員	
点検方法			
橋上	交通規制の要・不要	橋下	交通規制の要・不要
	時間帯		時間帯
	高所作業車の		高所作業車の
協議先1		協議先2	
協議先3			
詳細調査項目	漏水調査箇所数	アルカリ骨材反応調査箇所数	遮音壁等延長
	鋼差膜調査箇所数	鋼製橋脚隅角部調査基数	照明柱本数
	中性化深さ調査箇所数	塩害調査箇所数	標識柱本数
	圧縮強度調査箇所数	鋼床版疲労調査延長	BOX構造内部調査調査面積
	RC床版金パネル調査面積	FIIT遅れ破壊調査本数	鋼製ハイルベント橋脚調査箇所数
	補強鋼板調査面積	Co地盤・壁高欄調査面積	ケーブル詳細調査本数
特記事項	総評 ※点検の結果、今後の維持管理上の留意点を記入する。 【維持管理上の留意点等】特記事項(申し送り事項等)		
	【点検時未確認部位等】 ※近接できなかった箇所、点検できなかった箇所について記入する。		
点検概要図	●点検方法(橋上)		
	●第3者被害危険箇所(橋上、橋下)		
点検概要図	●点検方法(橋下)		
点検時写真	橋面		
	橋裏		

詳細点検報告書

特記事項	次回点検に対する提言 ※今回の点検を踏まえ、次回点検において留意すべき点を記述																																																				
点検概要図	点検概要図 ■橋上 ■橋下 ●点検方法(橋上)<table border="1"><thead><tr><th>点検方法</th><th>色</th><th>数量</th></tr></thead><tbody><tr><td>徒歩</td><td>茶</td><td>m²</td></tr><tr><td>徒歩(規制)</td><td>赤</td><td>m²</td></tr><tr><td>高所作業車</td><td>桃</td><td>m²</td></tr></tbody></table> ●第3者被害危険箇所(橋上、橋下)<table border="1"><thead><tr><th>内容</th><th>表記</th><th>数量</th></tr></thead><tbody><tr><td>Co壁高欄(対策済)</td><td></td><td>m</td></tr><tr><td>Co壁高欄(未対策)</td><td></td><td>m²</td></tr><tr><td>照明柱</td><td></td><td>基</td></tr><tr><td>標識柱</td><td></td><td>基</td></tr><tr><td>遮音壁</td><td></td><td>m</td></tr></tbody></table> ●点検方法(橋下)<table border="1"><thead><tr><th>点検方法</th><th>色</th><th>数量</th></tr></thead><tbody><tr><td>徒歩</td><td>茶</td><td>m²</td></tr><tr><td>梯子</td><td>緑</td><td>m²</td></tr><tr><td>船舶</td><td>青</td><td>m²</td></tr><tr><td>高所作業車</td><td>桃</td><td>m²</td></tr><tr><td>橋梁点検車</td><td>黄</td><td>m²</td></tr><tr><td>足場(点検路)</td><td>橙</td><td>m²</td></tr></tbody></table>		点検方法	色	数量	徒歩	茶	m ²	徒歩(規制)	赤	m ²	高所作業車	桃	m ²	内容	表記	数量	Co壁高欄(対策済)		m	Co壁高欄(未対策)		m ²	照明柱		基	標識柱		基	遮音壁		m	点検方法	色	数量	徒歩	茶	m ²	梯子	緑	m ²	船舶	青	m ²	高所作業車	桃	m ²	橋梁点検車	黄	m ²	足場(点検路)	橙	m ²
	点検方法	色	数量																																																		
徒歩	茶	m ²																																																			
徒歩(規制)	赤	m ²																																																			
高所作業車	桃	m ²																																																			
内容	表記	数量																																																			
Co壁高欄(対策済)		m																																																			
Co壁高欄(未対策)		m ²																																																			
照明柱		基																																																			
標識柱		基																																																			
遮音壁		m																																																			
点検方法	色	数量																																																			
徒歩	茶	m ²																																																			
梯子	緑	m ²																																																			
船舶	青	m ²																																																			
高所作業車	桃	m ²																																																			
橋梁点検車	黄	m ²																																																			
足場(点検路)	橙	m ²																																																			
次回点検方法根拠資料																																																					

※次回点検における点検方法の根拠となる写真、資料等を添付する。

●橋梁保全更新計画策定シート

①橋梁の概要

1. 基本諸元

橋名	建設年	行政区	工費所	路線種別	路線名	橋工施設	OBAS No.		
利用区分	橋長(m)	有効幅員(m)	有効面積(m)	避震路指定	緊急交通路指定	交通量	大型車交通量		
径間数	構造形式			適用示方書					

2. 一般図・写真

○一般図

○全景写真

②掲載概要図(掲載区分がC、D、Eで対策が必要であると考えられる損傷)



③状態評価

1. 机上調査結果

耐荷性 (※1)	設計荷重		対策履歴 要				①机上調査評価 (※4)
	要求性能						
	対策の状況						
	総評						
耐震性 (※2)	耐震性		総評				
	対策の必要性						
	対策の状況						
	総評						
河川条件 との整合 (※3)	河堰阻害率	橋脚幅	河川幅	=	<	5%	
	桁下余裕高		桁下高さ	=	>		
	基準径間長		河川流量 Q =	m ³ /sec	>		
	総評						

※1 「×」は対策が未実施のうち要求性能不満足かつ耐荷力照査Ⅰ「OUT」、「△」は対策未実施のうち要求性能不満足かつ耐荷力照査はOKまたは補強計画があるもの、「○」は、対策が実施済または対策不要。

※2 「×」は対策が未実施のうち耐震性ランク4または5、または必要な対策としてバイルベント、液状化対策、かさ上げのどれかがあるものとする。「△」「×」以外の未実施とし、「○」は、対策

※3 「×」は、対策の必要性は、耐震事業計画にかかわらず、平成8年度速示に对应していない上、下脚工を有し、それぞれ着床防止および橋脚増強を実施していない橋梁については、「有」とする

※4 「×」は全「OUT」または、桁中央部で桁下余裕高がクリアできずかつ端部などでHWLを越すもの。「△」は少なくとも一つがOUTのもの。「○」は全ての項目を満足しているもの。

※5 耐荷性、耐震性は桁下高は、軌道中央部の高さとする。

※6 耐荷性、耐震性はO:40点、△:20点、×:0点とし、河川条件との整合はO:20点、△:10点、×:0点として総和し、60点以上をⅠ（問題無し）、30点以上60点未満をⅡ（問題有り）、30点未満をⅢ（問題有り、重要度高）とする。

※7 耐荷性、耐震性は地上、液状化、バイルベント、石積、レンガ積橋台のいずれかか不安定構造を有する場合または、桁中央部で桁下余裕高がクリアできずかつ端部などでHWLを越すものは、Ⅳ（要抜本対策検討）とする。また、橋脚に道路線形が悪いものもⅣとする。

2. 現場点検結果

健全度 指標	耐荷性H1 (※5)	災害抵抗性H2 (※5)	走行安定性H3 (※5)	健全度評価点 (H1+H2)/2	健全度(※5)	詳細調査 結果 (※6)	実施詳細調査	②現場点検 評価(※7)
							異常内容	
							対策内容	
損傷 状況						対策の 必要性 (損傷区分C 以上で対策 が必要なも の)		

※5 健全度指標の耐荷性H1、災害抵抗性H2、走行安定性H3は、点検診断シートの評価評価点（後開閉）の平均値とする（構造物が複数ある場合は全径間の平均値とする）。健全度は、健全度評価点が60点以上をⅠ（健全）、30点以上60点未満をⅡ（要補修）、30点未満をⅢ（緊急対策）とする。

※6 「×」は異常について抜本対策が必要な場合、「△」は異常があるが、補修すれば改善する場合、「○」は経過観察または異常なし場合。

※7 健全度評価のⅠ、Ⅱ、Ⅲを記入するが、詳細調査結果で×の場合は、Ⅳとなる。

3. 総合評価

総合評価 (※8)	評価理由

※8 総合評価は、①机上調査評価と②現場点検評価のどちらかにⅣがある場合、または、いずれもⅢである場合は、「架橋、大規模改修など抜本対策検討が必要」の評価とする。それ以外の場合は、「抜本対策検討は不要」とする。

1. 補修計画

[illegible]

補修箇所一覧表

[illegible][illegible]

※1 要対策項目は、状態評価の「対策の必要性」にあげたもののうち、次の要領で記入すること。

- ・主構造については、基本的に損傷区分がD、E(3段階の場合はC)で早期に対策が必要なものを記入し、それ以外の場合に基本的な損傷区分Eのものを記入する。
- ・付属物等については、基本的に損傷区分Eのものを記入する。

※2 第3者被害対応、設計要否の判定については、Eランク損傷判定会議にて決定した内容を記載すること。

履歴診断シート

1. 総評

橋梁名		OBAS No.	
点検年度	点検業者	点検業務委託名	
耐荷性	耐荷性		
	要求性能		
	対策の状況		
	総評		
耐震性	耐震性		
	対策の必要性		
	対策の状況		
	総評		
河川条件との整合	河堰阻害率(%)		
	桁下余裕高		
	基準径間長		
	総評		
対策履歴概要			
総評			

2. 対策履歴(古いものよりNO.1から記入)

完了年度	出典(成果品)名
工事名	
工期	
業者名	現場代理人
設計職員	監督職員
対策種別	概算費用
対策概要	工種 内容 備考
特記事項	
対策概要図	

点検診断シート

1. 総評

橋梁名		OBAS No.		走行区分		位置区分	
点検年度		業務委託名		点検業者名			
損傷状況							
対策の必要性							
緊急対策の必要性							

2. 点検結果(構造物別)

(1) 詳細点検結果 (構造物単位)

○損傷評価点

構造物別		損傷評価点 (単位: 点、「3. 点検結果(径間別)」のうち最悪値を入力)											指標値 100点-(a)	状態指標 {(b)+(c)}/2	
		上部工							下部工	支保部		路上 伸縮 装置			合計 (a)
		主桁	横桁	縦桁	対傾構	横構	床版			支承					
観点	耐荷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	100 点(b)	100点	
	災害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	100 点(c)		
	走行	0.0					0.0			0.0		0.0	100 点		

※損傷評価点については、40点以上は顕著な損傷があるためセルを**赤色**へ着色すること。

また、20点以上40点未満は、損傷があることからセルを**薄いオレンジ色**へ着色すること。

○その他

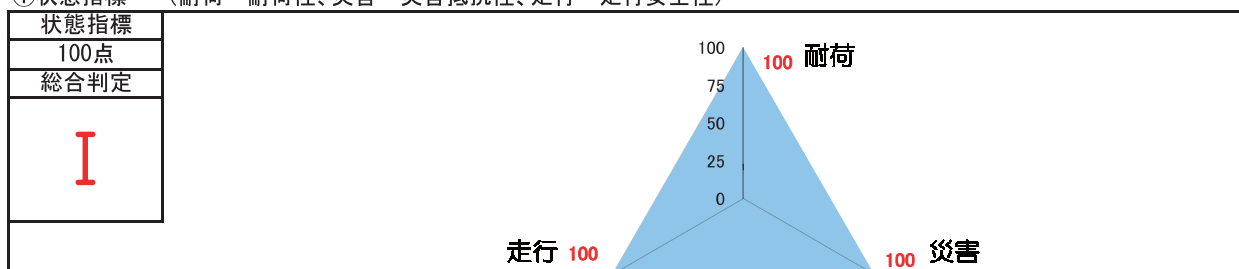
11. 損傷の種類	12. 評価
異常な振動・たわみ	
補強材の損傷	

(全体の最低を記入)

(全体の最低を記入。なければ-を記入する)

○指標

①状態指標 (耐荷=耐荷性、災害=災害抵抗性、走行=走行安全性)



②構造物保全率(7)

15.総合判定	16.評価

※総合判定には、主部材の損傷区分がA、B、Cのみであれば、「O」、D、Eが1つでもあれば「×」を記入

評価には、総合判定の根拠となる文章を記載する。

③予防保全率(アル骨、鋼製橋脚隅角部疲労、RC床版疲労、塩害)(8)

総合判定	要 因 名	アルカリ骨材反応	鋼製橋脚隅角部	RC床版	塩害
	判定結果				
	予防保全率判定				

※アルカリ骨材反応、鋼製橋脚隅角部、塩害、については(2)詳細調査の判定による

RC床版については、「床版ひびわれ・遊離石灰」でC以上、「床版の抜け落ち」でE判定のとき「×」とする。

(2) 詳細調査結果 (「3. 点検結果 (径間別) (2) 詳細調査結果」の全体を採用)

番号	調査項目				対象箇所数		実施箇所数		判定結果	特記事項（調査径間、部位、状態等）	
					単位	数量	単位	数量			
①	漏水調査				径間		径間				
②	鋼塗膜調査	中央部	一般外面	外桁	径間		径間				
				内桁	径間		径間				
			箱桁内面		径間		径間				
		桁端部	一般外面	外桁	径間		径間				
				内桁	径間		径間				
			箱桁内面		径間		径間				
③	RC床版調査	平均		m ²		m ²					
		最低		m ²		m ²					
④	F11T遅れ破壊調査				本		本				
⑤	第三者被害抑止調査 Co地覆・壁高欄				m ²		m ²				
	第三者被害抑止調査 遮音壁等ボルト				m ²		m ²				
	第三者被害抑止調査 照明灯				m ²		m ²				
	第三者被害抑止調査 標識柱				m ²		m ²				
	第三者被害抑止調査 増桁シール材調査				m ²		m ²				
⑥	BOX構造内部調査				m ²		m ²				
⑦	鋼製パイルベント橋脚調査				基		基				
⑧	ケーブル詳細調査				本		本				
⑨	洗掘詳細調査				基		基				
⑩	鋼床版等疲労調査				箇所		箇所				
⑪	中性化調査	上部工		箇所		箇所					
		下部工		箇所		箇所					
	圧縮強度調査			箇所		箇所					
⑫	鋼製橋脚隅角部調査				箇所		箇所				
⑬	塩害調査				箇所		箇所				
⑭	アルカリ骨材反応調査				箇所		箇所				

3. 点検結果(径間別)

(1) 詳細点検結果

○損傷評価点(※1 耐荷=耐荷性、災害=災害抵抗性、走行=走行安全性)

径間番号		損傷評価点 (単位: 点)											指標値 100点-(a)	状態指標 {(b)+(c)}/2	
		上部工								下部工	支承部	路上			全体 (a)
		主桁	横桁	縦桁	対傾構	横構	床版	合計	支承		伸縮 装置				
1	耐荷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	100 点 (b)	100点	
	災害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	100 点 (c)		
	走行	0.0					0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	100 点		
最悪値 (※2)	耐荷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	100 点 (b)	100点	
	災害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	100 点 (c)		
	走行	0.0					0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	100 点		

※1 損傷評価点の赤着色セル(40点以上)は、顕著な損傷を示す。薄オレンジ着色セル(20点以上40点未満)は、損傷があることを示す。

※2 各列の最悪値を採用する。

(2) 詳細調査結果

漏水調査		鋼塗膜調査						RC床版 ひびわれ調査		F11T 遅れ 破壊 調査	第三者被害抑止調査					BOX 構造 内部 調査	鋼製パ イルベ ント橋 脚調査
		中央部			桁端部			平均	最低		Co壁	遮音壁	照明柱	標識柱	増桁		
		一般外面		箱桁 内面	一般外面		箱桁 内面										
		外桁	内桁		外桁	内桁											
	—																

	ケー ブル 詳細 調査	洗掘 詳細 調査	鋼床版 疲労等 調査	中性化 調査		圧縮強 度試験	鋼製橋 脚隅角 部調査	塩害 調査	アルカ リ骨材 反応調 査	構造物 保全率	予防保全率				異常な 振動・ たわみ	補強材 損傷
				上部工	下部工						アル 骨	鋼製 橋脚	RC 床版	塩害		
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※全径間のうち最悪の評価を採用する。対象がなければ「-」を入力する。

損傷一般図				径間番号	
OBAS No.	路 線 名	行政区	径間番号	行政区	径間番号
橋 梁 名	走行区分	工営所	点検年月日	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名	建設年	点検者名
損 傷 一 般 図					

損傷詳細図 橋面				径間番号	
OBAS No.	路線名	行政区	径間番号	工務所	点検年月日
橋梁名	走行区分	位置区分		建設年	点検者名
交差物名					
損傷詳細図					

損傷詳細図 桁下				径間番号	
OBAS No.	路線名	行政区	径間番号	点検年月日	点検者名
橋梁名	走行区分	工営所			
交差物名	位置区分	建設年			
損傷詳細図					

損傷詳細図 下部工				径間番号	
OBAS No.	路線名	行政区	径間番号	点検年月日	点検者名
橋梁名	走行区分	工営所			
交差物名	位置区分	建設年			
損傷詳細図					

損傷写真				径間番号	
OBAS No.	路 線 名	行政区	径間番号	径間番号	点検年月日
橋 梁 名	走行区分	工 場 所	点検者名	点検者名	点検者名
交差物名	位置区分	建設年	建設年	建設年	建設年
写真番号	1	径間番号	2	写真番号	2
撮影年月日			部材名	撮影年月日	
部材番号			部材番号	部材番号	
損傷の種類			損傷の種類	損傷の種類	
損傷度評価			損傷度評価	損傷度評価	
メ			メ	メ	
モ			モ	モ	
写真番号	3	径間番号	4	写真番号	4
撮影年月日			部材名	撮影年月日	
部材番号			部材番号	部材番号	
損傷の種類			損傷の種類	損傷の種類	
損傷度評価			損傷度評価	損傷度評価	
メ			メ	メ	
モ			モ	モ	

損 傷 写 真

施設写真				径間番号	
OBAS No.	路 線 名	行政区	径間番号		
橋 梁 名	走行区分	工 場 所	点検年月日		
交差物名	位置区分	建設年	点検者名		
写真番号	1	径間番号	2	写真番号	2
撮影年月日			撮影年月日		
部材名			部材名		
メ			メ		
モ			モ		
写真番号			3	径間番号	4
撮影年月日			撮影年月日		
部材名			部材名		
メ			メ		
モ			モ		

損 傷 写 真

部材番号図 上部工・下部工				径間番号		
OBAS No.	路 線 名			行政区	径間番号	
橋 梁 名	走行区分			工 営 所	点検年月日	
交差物名	位置区分			建設年	点検者名	
部 材 番 号 図						

部材番号図 橋面				径間番号	
OBAS No.	路線名	行政区	径間番号	点検年月日	点検者名
橋梁名	走行区分	工営所			
交差物名	位置区分	建設年			
部材番号図					